



野町小学校

所在地：金沢市野町3丁目11-1

電話：076-241-8318 F A X：076-241-8319

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/nomachi-e/>

校長名：新澤 博志

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	36	32	21	34	31	44	198
学級数	2	1	1	1	1	2	8

	校長	教頭	教諭等							養護	事務	校務	他	合計
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	他					
職員数	1	1	2	1	1	1	1	2	4	1	1	1	1	18

1 平成22年度学力向上の取組内容の検証

(1) 基礎学力を習得させる取組（基礎的・基本的な知識・技能、学び方（本校では、基礎学力という）に関すること

習得三本柱について（知識・技能）

① 「野町習熟タイム」の取組

8時15分から8時35分までの20分間、基礎学力の習得をめざし、全校一斉、全教職員で取り組んだ。計算、漢字、詩の暗唱、英語MEを中心に目標を決めて習得に取り組み、ほぼ全員が目標を達成した。

② 「放課後学習教室」の実施

「野町習熟タイム」等でも習得できない子については、月、水、金の16時30分まで、全ての教科を対象に、ボランティアの協力を得ながら実施した。

③ 「家庭学習」の取組

漢字・音読・計算を中心に、保護者の協力を得て「学年×15分」とし習慣化した。また、価値ある宿題のリストアップ、自学ノート「あんずっ子ノート」の型の共通理解を行い定着を図ってきた。

学び方について

① 野町小「学びの作法」の徹底

子ども達に身につけさせたい聴き方、話し方、書き方を徹底してきた。また、泉中校区の4校と共通理解し、泉中校区「学びの基本」として作成することができた。

② 「語彙」の育成

全校で国語辞典や漢和辞典を系統的に指導し、他教科の学習にも常備することが習慣化し、語彙が増え、用語が定着してきた。

③ 語彙や表現力の育成

名作リスト100選の読書活動を推奨し、隙間時間の読書が習慣化するよう努めた結果、表現力が豊かになり、書くことに抵抗がなくなってきた。

④ 「学びノート」「レポート」の実施

ノート、レポートの型を示し全校で指導した結果、理科、社会科においても生きたノート、生かされたレポートが作成できるようになった。

(2) 基礎学力を活用し能力等の育成についての取組（思考力、判断力、表現力に関すること）

① 「メリハリのある授業」の実施

週案にも評価規準の4観点を明記し「メリハリのある授業」が行われた。

② 「磨き合う姿」に迫る教師の構え

ねらいに迫るための教師の支援の仕方について共通理解を図り、学習問題や発問、板書等の吟味が行われた。

③ 「話型表」の活用

子ども達が使った言葉やつぶやきを話型表に載せ、教室前面に掲示し、広めた。その結果、子ども達の言語を使った思考力・判断力・表現力の育成につながった。

④ 思考と表現の一体化の実施

思考と表現をつなげるために、子どもの考えをいかに表現させていくか、全体の場合でどのように周知させ、考察させていくかの実践検証を行った結果、表現力に高まりが見えてきた。

⑤ 辞書の活用

磨き合う場においても、キーワードとなる語句を事前に教師が想定しておくことで、より深い思考をするために辞書を活用する姿が見られるようになってきた。

⑥ 語彙の活用

言葉を吟味する感性を身につけるために、季節の俳句「芭蕉さん」に年4回チャレンジした。全員の作品を掲示し、優秀な作品には賞を与えたことから子ども達の励みとなり、語彙に深まりが見られた。

- (3) **探究する力の育成についての取組（活用・探究活動及びそれらを推進するための授業改善等）**
各教科等で培った基礎学力や能力等を駆使し、身近な人、地域において体験活動を通して、そこに存在する課題を発見し（課題発見能力）、問題解決する過程を通して問題解決能力を育成する。

① 「あんずっ子発表会」とユネスコスクールの実践公開

真の探究学習となるように、教育課程を常に加除修正を加えた。また「話すこと・聞くこと」の発達段階を意識した表現指導をし、生活科、総合的な学習の時間の成果を保護者、地域に公開した。

(4) **その他の取組**

① 「ぶらり参観」「かけこみ相談室」の実施

教師の授業力や指導力を向上させるため、互いに授業を見合う「ぶらり参観」や校内自主研修「かけこみ相談室」を実施した。単元構成、板書、発問等の授業研究を中心に行われ、授業力向上に役立った。

② 実力テストの実施

1月に全学年対象に実力テストを実施した。経年比較より1年間の指導の成果を図ることができるとともに、1月の保護者面談にも有効に活用した。

2 **学力等の現状分析**

全国・県学力調査結果により、本校の子ども達の実態は、次のとおりである。

- (1) 言語活動の充実を意識した授業を積み重ねた結果、漢字の書き取りや言語事項に関する設問はよくできている。また、他教科においても基礎的な事項はよく理解されている。しかし、基礎学力の習得状況にはまだ個人差がある。
- (2) グラフの読み取りができ、図形は書けるが、文章で表現する力や読解を伴う記述する力が不足している。
- (3) 筋道を立てて考え説明する力や事象と事象を関連付けて考える力、推論したり関係づけたりしながら考察する力が弱い。

3 **学力向上の取組**

概ね前にあげた**平成22年度学力向上の取組内容(1)～(4)**を踏襲する。なかでも基礎学力の取組の他、自分の考えをまとめるレポート作成、語彙力や豊かな心、思考力等を育む読書活動は、機を逸することなく取組を強化していく。

また、平成22年度学力調査結果から上にあげた**学力等の現状分析(1)～(3)**を踏まえ、下にある教育課程の作成を行う。11月より国語科のまとめに併せて理科・生活科における校内研修に入って行く。

年 度	金沢・野町スタンダード編成計画		
	窓 口	そ の 他	
H23年度	国語科を窓口に国語科野町スタンダードを再編	算数科野町スタンダードを構築(適宜音楽科、体育科、図工科、英語科等の教科及び道徳を見直す)	地域に生かされ地域を活かす生活科、総合的な学習の時間を再編
H24年度	理科を窓口に理科野町スタンダードを再編		
H25年度	社会科を窓口に社会科野町スタンダードを再編		
H26年度	H26年度以降は、同三年サイクルで教育課程の見直しをかけ、再構築を図る		

4 **その他の取組**

学力の向上にあたっては、学校教育目標等に則らなければならない。学力至上主義は危険である。

このことから、本校では、学校教育目標「伝承と創生の教育」、人として修めるべく「真仁健美」をめざし、学校研究主題「磨き合う子の育成」を達成するため、学習以外の以下の教育活動からもアプローチをする。

- (1) 体力テストの分析から、体力面での課題を把握し、全校あげて体力づくりの取組を実施する。
- (2) 3委員会から学校教育目標・研究主題に迫る。3委員会は連携・融合する。
 - ① 学習指導委員会は、教師の授業力・指導力向上の取組をさらに推進する。
 - ② 生徒指導委員会は、積極的生徒指導を展開する。
 - ③ 特別活動委員会は、児童会活動、学校行事、学級活動等を連動させる。
- (3) 児童会活動をより主体的な活動へと位置づける。
- (4) 児童の学校生活に変化とリズムを与えるため、学校行事は現状より減らさない。